

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

2016
9月号



【市民活動にこの人あり】第6回
インドの子どもたちとチームピー
スチャレンジャーの蔵田えりさん。

あの手この手のマークの間のSはsolution(解決)のSです。

第110号 2016年9月10日 大和市民活動センター 拠点やまと 発行



2016年度の表紙は笹倉鉄平版画ミュージアム主催の第7回やまと子ども絵画大賞の入賞作品を掲載しています。テーマは「好きな！楽しみな！学校での地域での行事」。今号は2作品を掲載します。

「緋い夏の思い出」神奈川新聞社賞 角森さら紗さん(渋谷中学2年)

小さいですが人のよく集まる自治会が開催している夏祭りをイメージしました。祭といえば金魚すくい、わたあめ、浴衣、そういう要素を詰め込みました。温かく華やかな雰囲気が出れば良いと思い、下地を黄色く塗って工夫しました。

「魚とりへ〜！」優秀賞 渡邊ゆらさん(綾瀬小3年)

夏にパパと魚とりに行った時が楽しかったので、思い出しながら書きました。とても細かく書いたので大へんでしたが、がんばって書きました。また、いろいろな所へ行って絵を書きたいです。



ただいま作品募集中！
まもなく締切り〜9/15必着
詳しくは、046-267-8085へ

「カッコフェスタ'16 in イオンモール大和」 11月22日(火)開催。出展団体募集開始

例年11月に、市民活動センターで開催している市民活動団体交流まつり「カッコフェスタ」。今年は、隣接する商工会議所が移転し、やまと産業フェアもすぐそばのやまと公園で開催されないため、思い切ってセンターを飛び出し、イオンモール大和1階のライトコートで開催することにいたしました。ついては出展団体を募集します。イオンに来店するお客様に対し、日頃の活動を広くアピールする絶好の機会です。ただし、会場の関係上、

物販や募金活動はできず、演奏など音の出る行為も制約がありますので、その点をご理解のうえ、当センターまでお問い合わせ・お申し込みください。なお、下記の日程で打ち合わせ会を当センターにて開催します。

第1回：10月6日(木) 10:00~12:00

第2回：10月25日(火) 13:00~15:00

※開催当日の11月22日(火)はセンターは閉館とします。





この夏の体験で、 感じたこと・学んだこと 夏休み中高生のボランティア体験 「このゆびとまれっ！」感想特集

夏の恒例企画「このゆびとまれっ！」には、7校から4名の中学生、47名の高校生が参加。延べ人数は中学生8名、高校生75名、83名となりました。受け入れ団体のみなさま、ご多忙のところ、ご協力ありがとうございました。

●デイサービスげ・ん・き〔7/21〕

高齢者支援（高齢者の話し相手など）

★一人だけだったが、詩吟の「修学」を吟じることができた。（柏木学園高校1年・男）

●デイサービスハッピー鶴間〔7/25・29・8/1・16・29〕

高齢者支援（高齢者の話し相手・ゲーム相手）

★ふうせんバレーや卓球楽しかったです。座ってても運動はできることを知りました。食事の時に何でも手をかしてはいけないこともわかり、一緒にできることは一緒にやっていくことが大切なんだなと思いました。（中略）将来はデイサービスで働きたいなと思いました。ここで出会えた人たちのことは一生忘れません。本当に楽しかったです。（相模原清陵高校3年・女）

●引地川水とみどりの会〔7/30・8/26〕

環境保全（引地川の清掃）

★中々ゴミを拾うことができなかったが、それでも3袋分も取れたことに驚いた。いつも自分の見ている川の中にもこれくらいゴミがあるのではないかと思った。いつかみんなが不法投棄をやめ掃除が不要になればいいなと思った。（南林間中学校3年）



●大和市芸術文化振興会〔7/31〕

文化活動支援（「0歳児からのコンサート」受付・会場整理）

★ボランティア活動は初めてだったので何をすればよいかかわからず、あまりお役に立てなかったです。今思えば周りのスタッフさんにもっと話しかけて積極的に行動すればよかったと思う場面が沢山ありました。今度また参加する機会があればがんばりたいです。（玉川学園高等部1年・女）



●サウンドテーブルテニスクラブ〔8/1〕

視覚障害者支援（サウンドテーブルテニスの相手など）

★普段、あまりかかわることのない視覚障害者の方々と同じルールで同じスポーツをすることができ、楽しかったし嬉しかったです。とまどうことも多かったが、障害者やスタッフの方々が気さくに話しかけて下さりフレンドリーな交流ができた。試合は一度も勝てず悔しかったです。（女子学院中学校3年・女）

●受け入れ団体から

やまと国際フレンドクラブ（IFC）

みなさん、「学べ〜る」はどうでしたか？ 最初に自分の担当する子に出会う時のワクワク感、苦手な科目を持ってこられた時のハラハラ感、子どもたちから「分かったよ」って言われた時の充実感。どれも忘れられない思い出になったのではないのでしょうか？ 子どもたちとの接し方を身をもって学び、真剣に子どもたちと向き合い、精一杯子どもたちに寄り添おうとしていた姿を見て、私たちIFCのメンバーも、とてもうれしく思いました。来年も待ってます！

会長 長谷部美由紀

●やまと国際フレンドクラブ〔8/1・2・3〕【学べ〜る】

国際交流支援（外国にルーツを持つ小中学生に勉強を教える）

★本格的に人に何かを教えることが初めてだったので、不安な気持ちでいっぱいでしたが、人とコミュニケーションをとることで、不安がなくなっていきました。最後に、教えた子に感謝されたことが嬉しかったです。（玉川学園高等部1年・女）



●NPO法人サポートハウスワン・ピース〔8/4〕

障害児・者支援（知的障害児と遊ぶ）

★子どもたちとボウリングをしました。まだワンピースは3回目だったにもかかわらず名前をおぼえてくれた子や顔をおぼえてくれた子がいました。今日初めて会った子もいたのですが、皆と仲良くなったので、次回のワンピースに行くのが、さらに楽しみになりました。（柏木学園高校3年・女）

●ゆらり倶楽部 大和〔8/9〕

高齢者支援（高齢者の話し相手など）

★おばあちゃんが歌詞のプリントをさしのべてくれて「一緒に歌おう」と言ってくれて、とてもうれしかったです。一緒に歌っておばあちゃんが泣いてくれて、やりがいを感じました。（柏木学園高校3年・男）

●チームピース チャレンジャー〔8/18〕

国際交流支援（ミサンガ袋詰め・写真パネルづくり）

★ミサンガやリストバンドなどの袋詰めをし、今日の作業でインドの子どもたちの給食1733食分につながったと分かり、自分が国際貢献できたのだと実感することができました。本当に良い体験をさせていただきました。ありがとうございました。（洗足学園中学校2年・女）



チームピース チャレンジャー 蔵田えりさん

蔵田えりさんは、小さい頃から戦争で足の傷を残していた父の姿を見て育ち、戦争の話をお聞きされはしなかったが、自ずと平和の大切さなどを意識するようになった。世界の価値観にも触れたいと専門学校で英語を学び、英語を活かせる仕事にも就いた。結婚・出産を機に一度は退職したが、復職後も世界の平和・貧困問題に関心を持ち続け約20年。2007年に立ち上げたのがチームピースチャレンジャーだ。

当初タイも訪問するが、敬愛するマザー・テレサゆかりのインドに照準を絞った。インドは近年その成長ぶりは知られているが、最貧困層の人口ではアフリカより多い。広いインドのなか、支援先としたのが仏教の聖地ブッダガヤにあるニランジャンナスクールだった。この学校の校舎は、東京学芸大学の学生50人がアルバイトで1000万円を貯めて作ったことを知り心を打たれた。創設者や校長の人柄にもほれ込み、ここで給食を週2回提供する活動を始めた。

単なる支援ではなく自立支援にと考え出したのが、生徒によるミサंगाづくりだ。週に一度の美術の時間に作成したミサंगाを日本で販売し、1本300円で4人分の給食費に充てるというもの。インドでは貧困から子どもは家庭で働かせ、学校に行かせるのを嫌う親が多い。しかし、学校だけでなく給食も無料であったため、学校に通わせる家庭が急増。いまや生徒数は500人。「待機児童問題」が発生するほどだ。

ミサंगाづくりを見た母親たちは、自分たちもやりたいと言いだした。ここから職業訓練所もできた。日本から洋裁や編み物の講師を派遣。インドの手紡ぎ手織り布カディによる衣料やバッグもフェアトレード品として生まれている。2013

年には衛生管理のため給食室をつくり、手を洗う習慣も励行したところ村中に広がった。さらに2016年からは栄養教育にも着手するなど、ミサंगाから始まった活動は好循環を生み出している。

今後の課題は給食を週5日にすること。ただ、食材の高騰、生徒数の増加などの問題を抱え、今年こそはと販路の模索で走り回っている。こうした支援活動に加え、さらに使命としているのが、途上国の子どもたちの現状を日本の子どもたちに伝えること。そのため、国内で物産展、講演会、上映会、写真展を開催するほか、学生ボランティア受け入れにも力を入れている。この夏も大和市中高生たちとミサंगाの袋詰め作業などを行った。来年は10周年。「地球の未来を担う若者たちに、活動を通じ、知ること、考えること、思いやりを持つことを伝えていきたい」と気持ちを新たにしている。



▲2009年、初めての給食は、食パン2枚とバナナだった。

市民活動センターと市民活動課での「インターンシップ」

8月22日から26日までの5日間、市民活動課と市民活動センターによる「インターンシップ」が、相模女子大学の管理栄養学科2年生2名、英語文化コミュニケーション学科1年生2名の計4名の参加で行われました。

協働事業提案検討結果報告会や「市民福祉のつどい」の見学、当センターの業務体験のほか、市民活動の現場で、障害児の遊び相手、高齢者とのレクリエーション、WEショップの活動なども体験しました。その感想をご紹介します。



入慶田本清美さん
(2年)

今回学んだことは、市と市民の連携の重要性についてです。何か事業をするときに、実際に実施するのは市民であるけれども、場の提供・情報の提供をするのは市というように、市では実際、人数的に実施・運営まで手が回らないところを市民がやることで事業が初めて成り立ちます。このようにうまく関わり合いながら市と市民とが一緒に活動することは凄いことだなと思いました。そして、市民活動センターが市民の協働の拠点として大きな役割を果たしていることをとても感じました。



大山日菜さん
(2年)

インターンシップを通じて、いろんな職業や年齢の方々と接し話をする機会をいただきました。特に、将来希望する職種の方に現場の声やアドバイス、女性の働き方の話が聴けたのが何より勉強になりました。今まで人と接することを苦手としていた私ですが、今回、人は会って直接話すことで、その人ならではの感情や悩みがわかるものと実感しました。これは、今後仕事にも大いにかかわる体験で、これからは、このような機会を見つけては人と接し、さまざまな人と話してみようと思いました。



小川日菜子さん
(1年)

今回一番印象に残った体験は、サポートハウスワンピースでの障害を持った子どもたちとのふれあいでした。はじめは不安でいっぱいでしたが、話したり遊んだりしているうちに、障害を持っているようにとなく、遊ぶことが好きな普通の子なんだと気づきました。無意識とはいえ、色眼鏡を通して見ていたので反省しなければいけないと感じました。また、今回「もっと誰かのためになることをしたい」と思いました。やってみたくてという気持ちだけでなく、実際に行動を起こしていきたいです。



田邊七海さん
(1年)

市民活動センターは、最初は入りにくい場所なのかなと感じていたのですが、さまざまな方を受け入れていて、本当に温かい場所なんだなとつくづく感じました。また、インターンシップは、事務体験ばかりかと思っていたのですが、今回の体験を通じて、外に出て小さな子どもや高齢者などいろいろな方と話をすることができ、新しい発見が得られ、すごく大事なことなんだと学びました。この体験は、いつか役に立つ時が来ると思うので、その時は思い出し、生かしていきたいです。

◆8月22日に協働事業提案 検討結果報告会が開催され、継続提案のあった「障がい者と地域住民とのふれあい体験活動を通じた共助・共生社会の実現を目指す事業」(NPO法人大和市腎友会)と「入院患者さんの『癒しの場』提供事業」(Lick Luck)のいずれも採択されました。

